

石巻瑞穂会だより

第5号

編集・発行
 千葉商科大学同窓会石巻瑞穂会
 発行責任者 阿部忠允
 発行日 平成27年12月1日

ご挨拶

千葉商大同窓会石巻瑞穂会会長

阿部 忠允

会員の皆様、お変わりございませんか。石巻瑞穂会だより第五号を発刊いたしました。忘れたころに発刊する、気まぐれな会報です。東日本大震災による悲惨な状況から立ち直れずにいる状況を目の当たりに致しております。復興・復旧は、徐々に目に見えるように成っておりますが、気持ちに余裕がなく石巻瑞穂会の会合や「瑞穂会だより」も後回しにしてしまい、世話役としては申し訳なく思っております。さて、会員の皆様！顔合わせをし、積もり積もった話し合いをしましょう。詳細は案内状をご覧ください。これから準備作業を進めます。再会を楽しみにしております。

忌まわしい震災から五年の歳月が経過……災禍直後の実情

(私事ごみぎ)

石巻地域は正に地獄絵図！二日間飲まず喰わずの避難生活、幸い私たちは娘



夫婦に助けられ仙台に避難、途中見る光景は言葉にならない。横倒しの車の中に犠牲者の顔、ご免なさいと手を合わせたが涙が止めどなく出る。三陸道を使い六時間かけて仙台に到着。テレビを見て、悲惨な様子を初めて知った。石巻だけで五千人からの犠牲者が出ている。居てもたつても居られない。石巻は未だ水が引かない。何としても自分の家をこの目で確認したい。焦りで気持ちが苛立つ。三日後、やっと自宅に戻り啞然！茫然！全壊に近い。



親戚への連絡もつかない。丁度に従兄弟が来て様子を知った。親戚が多数亡くなった。二名未だ行方不明。何ということか。落ち着こうと自分に言い聞かせ、今後の事を従兄弟と相談した。とにかく現状を見なければと話す道路が寸断され行けないそう。亡くなった親戚を仙台の葬儀社に連絡して運ぼうということになった。幸い我が家は大工さんが直ぐ飛んで来てくれたので、お盆まで修復が出来た。周囲の様子は、取壊し・傾いたままの状態。復興・復旧などは考えられない。



先ず何から手を付けようか。自分の家の事で精一杯。余裕がない。申し訳ないが、亡くなった人の事は後回しにした。

その後、次から次へと悲報の知らせが舞い込んだ。従兄弟と相談し、葬儀社に安置している親戚を火葬にということを手続き取ったが、どこも満杯で山形まで行き火葬だけは済ませた。告別式は、お寺が被災し、導師様の予定が立たない。やっと、落ち着いたのは、その年のお盆を過ぎたあたりだった。

さて、石巻瑞穂会の方々の安否はどうか？心配になり、お見舞いのメッセージと安否情報確認の為、会員宛てに便りを出しました。パソコンは全て水没し使えない。娘のパソコンを借りてやっと郵送することが出来ました。返信はがきは戻ってこない。やっと一ヶ月かけ十数名からの返事をもらいました。恐る恐る読んでみると、悲しい知らせ「二名の会員が犠牲に、家も仕事も全て奪われ途方に暮れている知らせばかりでした。」それでも、前を向いて力強く生きようと懸命な文面に勇気付けられました。



近々、石巻瑞穂会の会合を開き、鎮魂の祈り・近況報告会を開催いたします。詳細は、「同窓会宮城県支部HP」に掲載してあります。ご覧ください

第二十八回定期総会の開催

宮城県支部定期総会が、仙台菜時季で開催されました。私は所用があり欠席でした。

企画運営に魅力を感じる集まりが待望されます。支部同窓生諸兄のアイデア・ご意見をお聞かせ下さい。

震災の年から三年間「瑞穂みやぎ」の発行が休刊となっていました。今年、手作りの会報(経費削減)をと提案し、賛同が得られ編集に取り掛かりました。が、残念ながら原稿が集まらず見送りととなりました。

震災から……五年目……石巻で追悼行事

キャンドルを灯して、市内で犠牲者になった方々の追悼の思いを込め、手を合わせる姿が痛々しかった。辺りは幻想的な雰囲気にも包まれ、思いは一つ「前へ進もう！」でした。多くの人達と追悼の思いを共有出来、震災で生き残った我々は頑張らなければという思いでした。全国の方々からの心温まる励ましの言葉に添えて行こうと誓い合いました。

訃報のお知らせ

前同窓会宮城県支部長、山田文司様が去る三月二十九日投葉の効なく永眠いたしました。想い起せば、二十数年支部長としてその責任を果たし、温厚な人柄は誰からも慕われ、仙台市市政功労賞・若林地区町内連合会長としてその重責を担ってこられました。告別式では、多くの方々からのお見送りを受け旅立ちました。ここに謹んでお知らせいたします。



前同窓会宮城県支部長

山田文司 様

震災から五年目…石巻で鎮魂行事

四年目の祈り。しめやかに執り行われました。太陽の恵みを受け、太平洋と北上川に育まれた「日高見の国」。大切にしたいものがある、それは人の絆・感謝の心「石巻で生きてゆく共につくろう輝く未来」



千葉商大40会の開催

H24.5.27「松島センチュリーホテル」において、四〇会総会が開催された。未だ復興の兆しが見えない状況下にあつて、四十数年ぶりにお会いした懐かしい顔ぶれ、一晩語り明かしました。古希を迎えた年代になりお互い健康には十分留意したいものだど話題。震災の災禍の中、生命の危機を感じながら何とか生き延びた体験などをお話しいたしました。「今日でも、復興の遅れ・陸の孤島化した地域、永年住み慣れた地域を離れた方々、風光明媚で潮の香・海の幸の宝庫だった石巻。全国からのボランティアの方、外国の方、自衛隊の方々の献身的な働きには感謝・感謝でした。全国の方々に勇気付けられ、**がんばっぺ石巻**を合言葉に、日夜前向きに生きている様子をお話しいたしました。」和やかな一時、時間を忘れ深夜にまで及び、学生時代を思い起こし語り明かしました。



千葉商大同窓会40会 平成24年5月27日 於 松島センチュリーホテル

千葉商大40会総会

H25.5.27 松島センチュリーホテル

再会を約束しお開きとなりました。被災地で総会を開催していただき、お世話役の方々には感謝致しております。また、四〇会大西会長からの依頼もあり「**きずな**」への投稿を致しました。ご覧ください。

復興の様子

地元の為に、何も出来ないもどかしさを感じていたところ、ある方から声がかかり、NPO法人自治連合会のお手伝いを懇願され、一週間に一回程度顔だしをしています。主な仕事は、各種イベントの取りまとめや企画運営です。

あれから四年目を迎えた現在も、仮設住宅に一万人以上が一三四箇所の仮設住宅団地や見做し仮設住宅で暮らしています。早期の復旧・復興を目指すため自治連合会を立ち上げ、情報交換や要望検討を行い、問題点の解決や要望事項の実現の為に市役所関係部署・警察署・社会福祉協議会・ボランティア団体等と協議体を構成して宮城県に新しい公共の場づくりのためのモデル事業（支援事業）として、復旧・復興の方向性を探りながら、課題解決実現に向け取り組んでいます。



復興するぞ！・合言葉

今、さしあたって何が必要か？情報発信の手段としてHPを立ち上げることにしました。最近、災害公営住宅の建築ラッシュが続き、入居希望の倍率の高さに一喜一憂している仮設入居者が多く話題になっております。早く希望が叶えられることを願っている昨今です。



編集後記

五年ぶりに「石巻瑞穂会だより」の発刊に迎ってきました。寄稿に協力頂いた同窓生諸兄には、心より感謝申し上げます。会報「石巻瑞穂会だより」を心待ちにしている方もいらっしゃると思います。これを機会に千葉商大同窓会石巻瑞穂会に関心を寄せて戴きたいと思っております。なお、HPを大幅に更新し、新たに Facebook を公開致しました。アドレスは、フッター（下部欄外）を参照しアクセスして下さい。Facebook S URL

<https://www.facebook.com/shimidoho/>

編集責任者「阿部忠允」